



令和7年度

12月 三大幼だより

江東区立第三大島幼稚園

令和7年11月28日



三大幼 HP は
こちらから



豊かな環境で縦や横につながる笑顔

園長 安田 徳章

今年は、園庭の柿が色づくのが遅く、昨年より1か月ほど遅い11月下旬の収穫になりました。毎年恒例になった、高枝ばさみで切った枝に付いた柿が割れないように、こどもたちがビニールシートを掛けてしっかりと受け止めて収穫する風景が繰り広げられました。本園の柿は渋柿なので、今年もテラスに吊るして干し柿にしています。

すいすい池の奥にあるミカンが柿より少し早い11月中旬に収穫できました。10月から11月にかけて、少しずつ色濃くなっていくミカンを見ながら「いつになったら食べられるの?」と収穫することを楽しみにしていたこどもたち。おいしそうな色になってきたミカンが多くなってきた11月中旬に、一人一つずつ収穫することにしました。昨年度の経験を覚えている年長児が、はさみを使わずに手で収穫する方法を年中児に言葉と動きで伝えてくれたので、年中児も、自分でどのミカンをとるか選び、小さな手には大き過ぎて落ちそうになるような立派なミカンを、しっかりと持つてくるくる回しながら収穫することができました。ミカンの収穫には、今年の2月にすいすい池の真ん中に掛けた橋も一役買っていました。「池に橋があったらもっとミカンがとりやすいのに」と言っていた昨年の子の思いが、今年実ったのです。

秋から冬にかけて毎年のように繰り広げられてきた園庭の光景に、今年初めて仲間入りしたことがあります。江東区立大島幼稚園との交流です。先日、大島幼稚園の年中児が本園に遊びに来て、年中児同士で砂場や固定遊具での遊び、鬼遊びなどを一緒に楽しみました。今年度、年長児が大島幼稚園まで出掛けて交流する取組を始めましたが、今回初めて、本園に遊びに来てくれたのです。12月には年長児も来園予定です。繰り返し連携を図ることで、こどもたちの人との関わりを更に豊かにしていきたいと考えています。分かれ際には、園庭にたくさん実っていたミカンをお土産にプレゼントしました。豊かな環境に恵まれ、こどもたちの笑顔が、豊かな体験が、年を超えて、また横の広がりをもってつながっていきます。

令和7年も残すところ1か月となりました。保護者、地域の皆様には、今年もたくさんのご理解、ご協力をいただきありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。



今月の指導のポイント



年中りんご組

りんご組のこどもたちは園庭でのおうちごっこ、積み木などに様々な遊びを楽しむ姿が見られます。自分なりにイメージをもって、動くことや遊びに使うものを作ることを楽しめるようにします。また、短縄やしっぽとりなどの遊びをする中で、寒い中でも体を動かす楽しさを感じられるようにします。

一緒に遊んでいる友達に、自分の思いを動きや言葉で表そうとする姿が増えてきました。一方で、言葉が足りなかったり、自分の思いを強く表したりして、思いがうまく伝わらないこともあります。自分の思いを十分に表しながら、少しずつ相手の思いを感じていけるように、橋渡しをしていきます。

温飯器の使用が始まることや、上着の始末など、冬の生活の仕方を知り自分で行えるようにしていきます。冬休み前には、一年が終わることを知り、自分たちが使った保育室や砂場の遊具などの大掃除をし、気持ちよく新年を迎えられるようにします。

年長にし組

寒いと感じる日が増えてきました。にし組のこどもたちは、園庭に出て紅葉した葉の色や形などに興味・関心をもったり、芋づるで遊んだりするなど、身近な自然を遊びに取り入れる姿が多く見られています。

園庭でドッジボールや短縄など、体を動かすことを楽しんでいきます。これからチャレンジカードなども活用し、より挑戦しようとする気持ちをもてるようにしていきます。また、ルールや勝敗のある遊びの楽しさも十分に味わえるようにしていきます。

学級のみんなでこども会をすることを楽しみにし、役になりきって動いたり、劇に必要な物を作ったりしていきます。互いの思いや考えを伝え合ったり、友達よさに気付いたり互いに認め合ったりできるようにしていきます。また、協力してこども会を進め、やり遂げた満足感を味わえるようにしていきます。

年末、年始の行事に関心を持ち、新しい年を迎える準備や年末年始の挨拶があることなどが分かり行えるようにしていきます。